

第11回NPT再検討会議NGOセッション（5月1日）

松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ

皆さん、こんにちは。平和首長会議会長、広島市長の松井一實です。発言の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

今、世界では多くの武力紛争が続き、市民の命が奪われ、重要なインフラが破壊されています。このままでは国連憲章を含む法の支配が揺らぎ、さらなる紛争の連鎖を招きかねません。例え通常兵器による紛争であっても、核保有国が当事者になることで核兵器使用のリスクは極限まで高まります。こうした状況の下で、我々市民は、際限のない不安を抱えながら日々を送っています。

戦争の犠牲になるのは、いつの時代も罪のない市民です。各国の為政者の方々は、相手を善か悪かと決めつけ、攻撃することの是非について言い争うのではなく、どうか核兵器がもたらす非人道的な惨禍を招くことのないよう理性をもって冷静な対応をしてください。

今こそ、国際社会が築いてきた核軍縮・不拡散の枠組みの価値を再確認すべきです。NPTは、核軍縮、核不拡散、原子力の平和的利用という三つの柱の下で国際秩序を支えてきました。近年は具体的な核軍縮の進展が見られない状況ですが、各国政府代表者の皆様には、NPTのこれまでの成果を再確認の上、第6条の誠実交渉義務に立ち返り、強い決意をもって交渉を進めていただくよう要請します。

焦土の中から立ち上がった被爆者の方々の平和への願いを原点に、広島と長崎から始まった平和首長会議は、今や世界約8,600都市が加盟する国際的な平和都市ネットワークに成長しました。平和首長会議は厳しい国際情勢の中にあっても、決して諦めることなく、市民社会とともに対話と連帯を広げ、草の根レベルでの取組を強化することにより、国レベルの平和への取組を支えていきます。

各国政府代表の皆様！核抑止に依存する現状を乗り越え真の平和を実現してほしいという市民社会の願いは、既に皆様の心の中で皆様の思いと共鳴しているはずです。どうか対話による外交努力を通じて核軍縮・不拡散を誠実に前進させていただくよう心から期待しています。